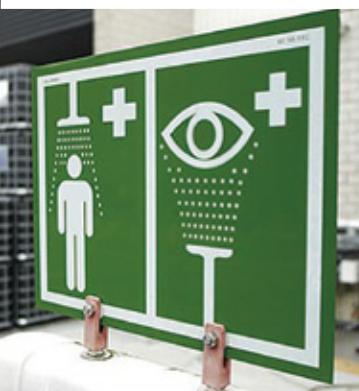




MAX REPORT



株主のみなさまへ
84期 第2四半期報告書(累計)
自平成26年 4月1日 ▶ 至 平成26年 9月30日

経営基本姿勢

顧客の支持を高め、いきいきと楽しく力を合わせ
皆揃って成長していく集団を目指す

1.顧客を知る、現場を知る経営に徹する

自分達の顧客は誰か。そしてその顧客を知るために、また自らを知るために、「現場」「現物」「現実」の三現主義を徹底して実践し、その問題の原因、課題を解決することで顧客価値を高め、企業価値を高めます。

2.ガラス張りの経営に徹する

連結決算を重視し、一般に公正妥当な会計基準に基づき、企業の方針、業績、実態を適時・適切に社内外に公開してまいります。

3.全員参画の経営に徹する

社員は仕事を通して積極的に経営に参加し、それぞれの役割の中で事業成果を拡大してまいります。

4.成果配分の経営に徹する

結実された成果は、「株主」「社員」「社会」に公正に配分してまいります。

経営方針

1. 収益力の強化 2. 成長事業の確立 3. 自ら考え、行動を起こす

株主のみなさまへ

株主のみなさまには、日ごろから格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。
当社は、「現場」「現物」「現実」の三現主義を全社・全組織において実践して顧客の問題、課題を解決することで、顧客価値を高め、企業価値を高めてまいります。

ご報告

当期の概要について

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、政府の経済対策や金融政策により、企業業績や雇用情勢の改善が見られるなど、緩やかな景気回復基調にあるものの、消費税率引き上げに伴う駆け込み需要の反動に加え、新設住宅着工戸数の減少が継続するなど、当社事業を取り巻く経営環境は依然として厳しい状況で推移しました。海外では、米国における良好な住宅市況が当社業績を後押しする結果となりましたが、欧州経済は低水準の成長に留まり、アジア新興国では一部で通貨下落が継続するなど、先行き不透明な状況となりました。

このような状況の下で当社グループは、『1.収益力の強化、2.成長事業の確立、3.自ら考え、行動を起こす』を当期の経営方針として掲げ、収益を生み出す企業体質への変革を目指してまいりました。また、「現場」「現物」「現実」の三現主義を全社・全組織において実践し、顧客の問題・課題を解決することで顧客価値を高め、企業価値を高めてまいりました。

この結果、売上高は312億8千1百万円(前年同期比2.0%の増収)、営業利益は26億3千1百万円(同20.3%の増益)となりました。経常利益は、28億6千1百万円(同27.0%の増益)、四半期純利益は19億1千2百万円(同33.9%の増益)となりました。

今期の見通し

当社の第2四半期連結累計期間の実績は堅調に推移しましたが、国内の経済環境は企業の設備投資が回復傾向にあるものの、当社業績に影響を与える新設住宅着工戸数は減少が続くなど不透明な状況にあります。海外では、米国、アジア新興国は緩やかな成長が継続する一方、欧州は景気停滞が続いており、当社グループを取り巻く環境は依然として予断を許さない状況にあります。

このような状況を鑑み、平成26年4月25日に公表した平成27年3月期連結業績予想について、現時点において変更はありません。

今後とも株主の皆さまには、引き続きご支援ご鞭撻を賜りますよう、お願い申し上げます。

平成26年11月



代表取締役社長
川村八郎

もくじ

経営基本姿勢・経営方針	1	セグメント別の概要	5・6
株主のみなさまへ	2	特集:マックス 情熱ストーリー	7・8
財務ハイライト	3	会社情報/株式の状況	9
連結財務諸表	4	利益配分に関する基本方針/配当/株主メモ	10

※本資料の将来に係わる記述は、現時点で入手可能な情報および将来の業績に影響を与える不確定な要素を含む仮定を前提としております。実際の事業は、今後の様々な要因によって異なる結果となる可能性があります。

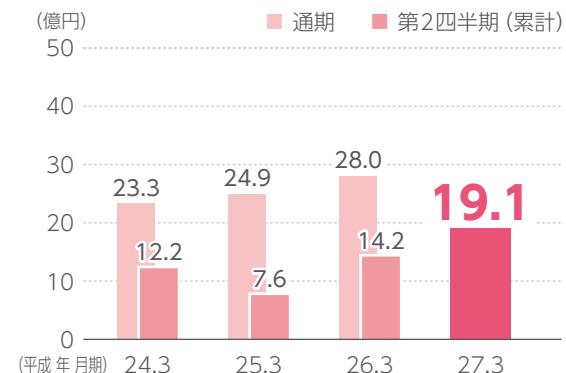
連結損益計算書の概要

売上高



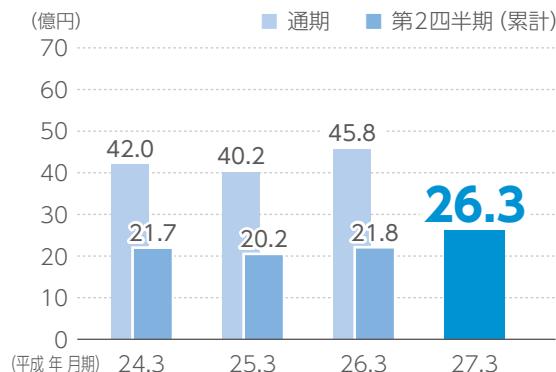
消費増税の反動の影響を受けながらも住環境事業と海外事業が伸長し、増収となりました。

当期純利益



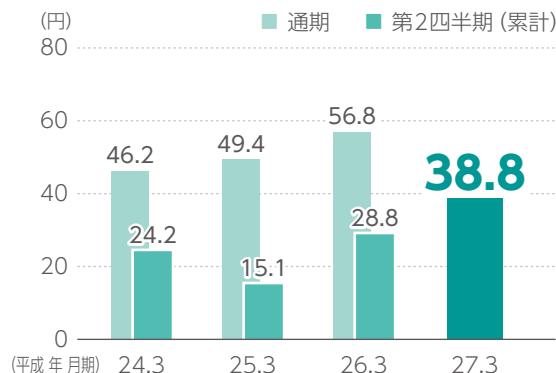
営業増益の上、為替差益による営業外収益が増加したことなどにより、前年同期に比べ増加しています。

営業利益



営業利益は増収を背景に増加し、営業利益率は原価低減などにより前年同期に比べ改善しました。

1株当たり当期純利益



四半期利益の増加により、前期の28.8円から38.8円に増加しました。

貸借対照表

(単位:百万円)

科目	期別	前連結会計年度 (平成26.3.31現在)	当第2四半期 連結会計期間 (平成26.9.30現在)
資産の部			
流動資産		38,916	38,372
固定資産		45,641	46,820
有形固定資産		17,586	17,725
無形固定資産		254	994
投資その他の資産		27,799	28,101
資産合計		84,557	85,193
負債の部			
流動負債		11,698	11,477
固定負債		10,863	10,957
負債合計		22,562	22,435
純資産の部			
株主資本		64,290	64,241
その他の包括利益累計額		△ 2,401	△ 1,594
少数株主持分		105	110
純資産合計		61,995	62,757
負債・純資産合計		84,557	85,193

損益計算書

(単位:百万円)

科目	期別	前第2四半期 連結累計期間 (皇 平成25.4.1 皇 平成25.9.30)	当第2四半期 連結累計期間 (皇 平成26.4.1 皇 平成26.9.30)
売上高		30,659	31,281
売上原価		19,087	19,205
売上総利益		11,572	12,075
販売費及び一般管理費		9,385	9,444
営業利益		2,187	2,631
営業外収益		151	295
営業外費用		86	65
経常利益		2,253	2,861
特別利益		70	-
特別損失		23	74
税金等調整前四半期純利益		2,299	2,787
四半期純利益		1,428	1,912

Point

- 1 Be-pop欧州代理店のライトハウス社(以下LH社)を連結子会社化した際にのれんを計上したことなどにより、無形固定資産が増加しました。
- 2 支払手形及び買掛金が減少したことなどにより、流動負債は減少しました。
- 3 円安により為替差益が増加したことなどにより、営業外収益が増加しました。
- 4 税金等調整前四半期純利益が増加したことなどにより、増加しました。
- 5 営業活動によるキャッシュ・フローに対して、投資・財務によるキャッシュ・フローの支出が減少したことなどにより、増加しました。

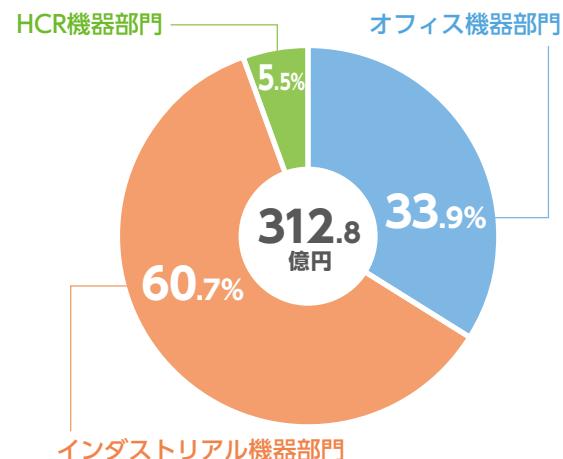
キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

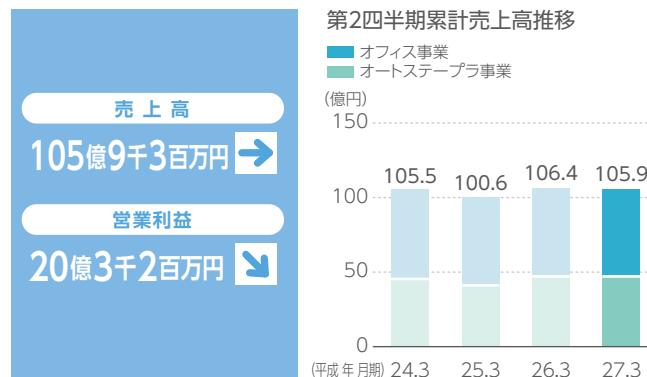
科目	期別	前第2四半期 連結累計期間 (皇 平成25.4.1 皇 平成25.9.30)	当第2四半期 連結累計期間 (皇 平成26.4.1 皇 平成26.9.30)
現金及び現金同等物の期首残高		16,073	11,025
営業活動によるキャッシュ・フロー		1,429	3,400
投資活動によるキャッシュ・フロー		△ 2,893	△ 1,374
財務活動によるキャッシュ・フロー		△ 3,784	△ 1,890
現金及び現金同等物に係る換算差額		46	174
現金及び現金同等物の増減額		△ 5,201	310
連結の範囲の変更に伴う現金及び現金同等物の増減額		-	531
現金及び現金同等物の四半期末残高		10,872	11,867

セグメント別の概要

● 平成27年3月期第2四半期累計売上高構成比



■ オフィス機器部門



オフィス機器部門

- ・ オフィス事業は、主力のホッチキスをはじめとした文具や事務機械を通じてオフィスワークをサポートしています。
- ・ オートステープラ事業は、複写機メーカーに搭載される電子ホッチキスおよび消耗品を供給しています。

インダストリアル機器部門

- ・ 機工品事業は、主力の釘打機をはじめとした木造建築用の工具、コンクリート構造物向けの建設用工具などを販売しています。
- ・ 住環境機器事業は、浴室暖房換気乾燥機、24時間換気システムなどを通じて、住まいの快適環境づくりを提案しています。

HCR機器部門

- ・ 車いすや歩行器など移動機器の供給を通じて、高齢者の自立生活を支援しています。

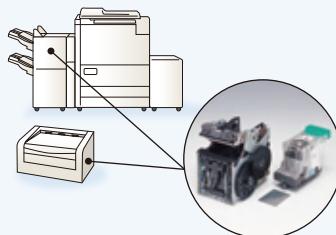
オフィス事業

国内は消費増税の駆け込み需要の反動により減収となりましたが、海外は第1四半期より連結子会社化したLH社の売上高が寄与し、増収となりました。



オートステープラ事業

複写機市場の回復を受け、売上高は前年同期の水準を確保しています。



機工品事業

国内は新設住宅着工戸数の減少が継続したことなどにより減収となりましたが、海外は北米でのコンクリート構造物向け工具の販売が好調で、増収となりました。



住環境機器事業

主力の浴室暖房換気乾燥機や換気システムの販売が堅調に推移したことにより、増収となりました。



HCR機器部門

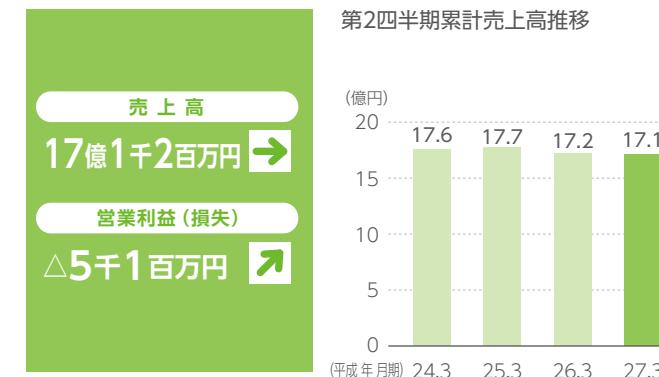
歩行器の出荷数が減少しましたが、車いすの新製品の販売が寄与したことで、前年同期水準の売上高となりました。



■ インダストリアル機器部門



■ HCR機器部門



2013年6月、当社は紙素材の専用針を使用することで、最大15枚までの書類を簡単な操作でしっかりととじることができ「P-KISS」を発売しました。従来の金属針が使用できなかった業界を中心に、多くのお客様からご好評をいただいておりますが、その製品開発には様々な困難がありました。今回は、「P-KISS」誕生までの軌跡をご紹介します。

1. お客様からのご要望

金属針を使えない食品会社からの要望がキッカケでした

もともと食品会社では、卵のパックやお弁当の蓋を金属針でとめていました。しかし、十数年前からは安全のために金属針を使用しない傾向に。ここ数年では生産ラインだけではなく、事務所でも使用を控えるようになってきていたのです。実際、当社社員がある食品会社を訪問した時に、「ホッチキスでとじた書類は出さないでほしい」と要望されたこともありました。そのような厳しい環境でも、食品会社では他の企業と同様に資料を作成する機会や、工程間をまたいで書類が行き来する場面もあり、現場からは「多い枚数でもしっかりととじたい」という声が寄せられていました。



※食品工場内のイメージです

2. 当社での製品開発



▲開発中に作られた試作機の一部

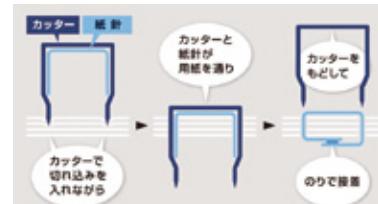
通常の開発期間の何倍も要した非常に困難な開発でした

そこで私たちが着目したのが紙製の針。ただ、当時は今ほど脱・金属針の動きが大きくなかったため、社内でも「金属針の否定につながるのでは」との声もありました。しかし、最終的には営業担当者が現場で掴んできたお客様の声を選び、2006年、開発が本格的に動き出しました。完成に至るまで、通常のホッチキスが1年程度かかるのに対し、P-KISSが7年も要したのは、「どうやってとじるか」と「紙の素材をどうするか」という2つの難関が立ちはだかったからです。

3. 紙でとじることができる仕組み

地道に問題を解決しながら製品化にたどり着きました

金属針のように強度のない「紙の針」をどうやって書類に通すか… 開発から1年、「とじる仕組み」がおぼろげながら見えてきました。突破口となった仕組みは、カッターで書類に切り込みを入れながら紙針も同時に書類に貫通させ、カッターを戻しながら紙針の両端を折り曲げてしっかりと接着させるなど、約20アクション。これらをタイミングよく作動させないと上手くとじることができないため、地道にひとつずつクリアしていきました。また、紙針の素材選びにも難航。最終的には雑誌の表紙と同じコート紙に決定し、色にも現場の声を取り入れ、食品工場で識別しやすい「青」と書類になじむ「白」を採用しました。



▲P-KISSのとじる仕組み



▲試しとじをした紙の束

4. 発売後のお客様からの反応



食品会社のみならず多くのお客様から支持されています

幾多の困難を乗り越え発売に至ったP-KISSは、食品会社のみならず、さまざまな場面で使用されています。たとえば、ある幼稚園では、子どもが被るお面を作る際に「顔を傷つける心配がなくて安心」との声が。また、ある地方自治体では「高齢者に配る資料をとじるために使いたい」という理由で採用されています。

さらに、2014年10月には最大とじ枚数を20枚に向上させた「P-KISS20」を発売しました。当社では今後も、お客様の声をひとつひとつ分析し、より多くの方が満足できるホッチキスの開発を進めていきます。



会社概要 (平成26年9月30日時点)

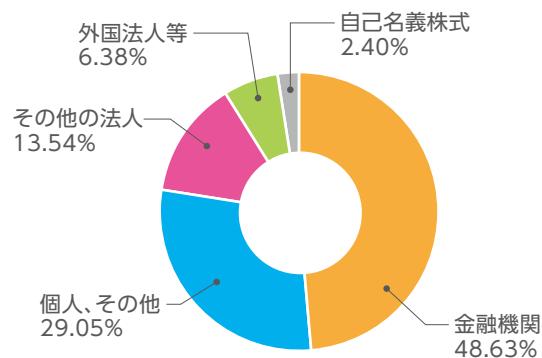
商号：マックス株式会社
 本社：東京都中央区日本橋箱崎町6番6号
 設立：昭和17年11月26日
 資本金：123億6千7百万円
 従業員：2,848名
 グループ会社：連結子会社26社
 (国内13社、海外13社)

取締役・監査役・執行役員 (平成26年10月現在)

代表取締役社長	川村 八郎	常勤監査役	亀ヶ谷 正次
専務取締役上席執行役員	塩川 博	常勤監査役	木暮 郷司
常務取締役上席執行役員	樋口 浩一	社外監査役	畠山 正誠
取締役上席執行役員	黒沢 光照	社外監査役	望月 眞宏
取締役執行役員	村山 恵司郎	上席執行役員	柳澤 徳仁
取締役執行役員	岸 信夫	上席執行役員	中野 俊和
取締役執行役員	浅見 泰	執行役員	加藤 賢二
取締役執行役員	西川 博文	執行役員	山崎 隆
取締役執行役員	角 芳尋	執行役員	斎藤 篤

※監査役 畠山正誠、望月眞宏の両氏は、「会社法」第2条第16号に定める社外監査役です。

株式分布状況 (所有者別株式数比率) (平成26年9月30日時点)



発行可能株式総数：145,983,000株
 発行済株式の総数：50,500,626株
 株主数：4,362人

大株主 (上位10位まで) (平成26年9月30日時点)

株主名	当社への出資状況	
	持株数(千株)	持株比率 (%)
第一生命保険株式会社	4,284	8.69
日本生命保険相互会社	3,762	7.63
マックス共栄会第一持株会	3,713	7.53
マックス共栄会第二持株会	2,855	5.79
株式会社みずほ銀行	2,344	4.76
株式会社群馬銀行	2,114	4.29
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	1,645	3.34
明治安田生命保険相互会社	1,588	3.22
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	1,339	2.72
マックス従業員持株会	1,110	2.25

※当社は平成26年9月30日現在で自己株式1,210,166株を保有しておりますが、上記大株主からは除いております。また持株比率については、自己株式を控除して算出しております。

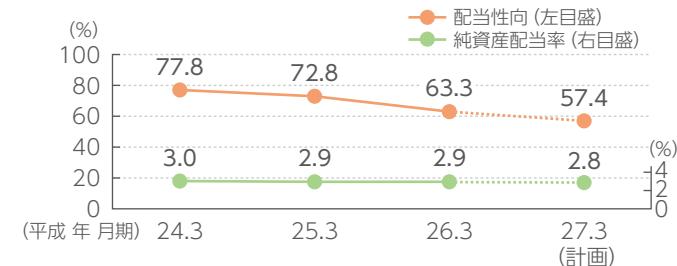
利益配分に関する基本方針 / 配当

当社は、株主の皆様に対する利益還元を経営の最重要政策のひとつとして位置づけ、事業の成長を図り、事業利益を追求することにより自己資本当期純利益率(ROE)を向上させ、業績に裏づけされた成果の配分を行うことを基本方針としております。

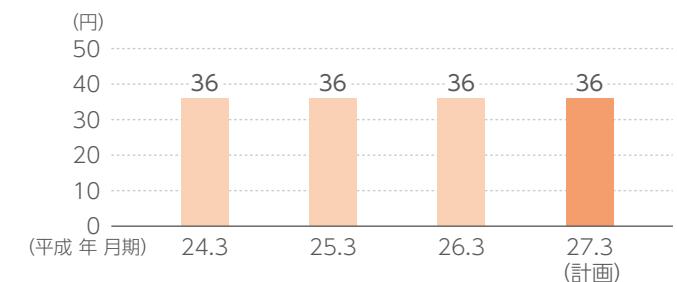
当社の配当政策は、連結決算を基準に「配当性向40%を下限とし、純資産配当率2.5%を目指す」を基本方針としています。

当期は、先行き不透明な経済環境や為替動向などが当社業績に対し影響を及ぼす可能性があります。事業収益は堅調に推移しており、財務状況などを総合的に勘案して、前期と同様の「1株当たり年間配当金36円」とする予定です。

配当性向/純資産配当率の推移



1株当たり配当金の推移



株主メモ

事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日まで
 定時株主総会 毎年6月開催
 基準日 定時株主総会・期末配当金 毎年3月31日 その他必要のある場合は、取締役会の決議により、あらかじめ公告いたします。
株主名簿管理人および特別口座の口座管理機関
 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
株主名簿管理人事務取扱場所
 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
 郵便物送付先 〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
 電話照会先 ☎0120-782-031 インターネットホームページURL <http://www.smtb.jp/personal/agency/index.html>
 単元株式数 1,000株
 公告の方法 当社ホームページに掲載いたします。<http://www.max-ltd.co.jp/>
 ただし、事故その他やむを得ない事由により、当社ホームページに掲載できない場合は、日本経済新聞に掲載いたします。
 上場証券取引所 東京

<http://www.max-ltd.co.jp/ir/> 本社 〒103-8502 東京都中央区日本橋箱崎町6番6号 TEL.(03)3669-0311(代)

第5回 マックス

「心のホッチキス・ストーリー」

大募集

～毎日の生活の中で、「あなたが今、ホッチキスしたいこと」をお寄せください～

平成26年 10月1日(水)～12月7日(日)

何気ない生活の中にある、「今の幸せ」「家族との結束」「人との付き合い」など、
いつまでも心にとどめておきたい思いや出来事などを募集しています。

応募資格： どなたでもご応募いただけます。

募集内容： あなたが心にとどめておきたいことや、つないでおきたいこと。

(例えば、「今の幸せ」や「家族の絆」、「友だちとの思い出」など、どんなことでも結構です。)

募集期間： 平成26年10月1日(水)～平成26年12月7日(日) ※当日消印有効

応募方法： 原稿は400字程度(超過、未満可)。自作未発表作品に限ります。

表彰：

マックス・心のホッチキス大賞	1点	ギフト券5万円とマックス製文具セット (4千円相当)
マックス・U-18大賞(高校生の部)	1点	図書カード1万円とマックス製文具セット(4千円相当)
マックス・U-18大賞(中学生の部)	1点	図書カード1万円とマックス製文具セット(4千円相当)
マックス・U-18大賞(小学生以下の部)	1点	図書カード1万円とマックス製文具セット(4千円相当)
マックス賞	5点	図書カード5千円とマックス製文具セット(4千円相当)

※マックス・U-18大賞は、高校生以下の応募作品が対象です。

応募先： 当社ホームページの応募専用フォームもしくは郵送で受け付けます。

・ **当社ホームページの場合**

https://wis.max-ltd.co.jp/enq/story5_form.html

・ **郵送の場合**

住所、氏名、年齢、性別、職業、電話番号、ペンネームを明記の上、
以下の宛先までご応募ください。

〒103-0027 日本郵便株式会社 日本橋南郵便局留

マックス「心のホッチキス・ストーリー」事務局 係

審査発表： 当社にて厳正な審査をし、入賞者には直接通知し、ホームページ上に
掲載いたします。発表は平成27年2月下旬を予定しております。

詳しくは
当社ホームページへ
アクセス!



著作権について：応募作品の全ての著作権(著作権法第27条
および第28条に定める権利を含む)は、マックス株式会社に
帰属いたします。また、応募作品は、返却いたしません。
なお、応募作品は、出版、映像化(映画・テレビ・DVDなど)、舞
台化、放送、ネット配信などの方法で利用することがあります。



印刷時に、VOC(揮発性有機
化合物)などを含む湿し水が
不要となる水なし印刷です。



CO₂を排出しないグリーン
電力を一部使用している
工場で印刷しています。



石油系溶剤の一部を植物
油に置き換えたベジタブル
インキを使用しています。



ユニバーサルデザイン(UD)
に基づいた、読みやすい文字
デザインを使用しています。